

2022年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	施設長 橋本和也	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で安心して暮らすことを支援します。 あすならホーム畝傍は、「10の基本ケア」をもとに、当事者の「普通の暮らし」を考え、その人らしく生活ができるように「自立支援」を実施します。 榎原神宮や畝傍山に近く、住宅地に馴染んでいる施設です。
事業所名	あすならホーム 畝傍	管理者	坂本祥一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	<ul style="list-style-type: none"> 職員自己評価の結果を職員に周知し改善計画を実行する。 研修に参加できるように職員体制を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員自己評価については、結果を閲覧できるようにし、今回の自己評価を行う参考にできたが、職員によっては関りが薄い項目もみられた。 職員体制を改善することは難しかったが、研修の日程を増やし一度に参加する職員を減らすことで無理なく参加できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で様々な制約がある中でも、利用者の体調や声を聴き、今何が必要なのか等を考え接している。 職員間での情報共有の仕方、あり方などを考え取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の声に耳を傾け、「～できる」「～したい」を応援し、その人らしく暮らせる支援に努める。 研修に参加できるように職員体制や日程などを工夫する。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 玄関先に看板があるので、気軽に入ることができる。 玄関も開放していることが多く、外部の方でもインターフォンを押さずに入ってくる方も多い。 玄関の立ち入りやすい環境を再度見直し、「インターフォン押してください」等貼り付けします。 ホーム内は引き続き清潔感を保ちます。 ホームの外の草引きや掃除に関しては、ホーム内で協議して、当番制で掃除するなど検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> できている。 インターフォンが2か所あるので、それぞれに貼り紙をして適切な部署にアクセスできるようにした。 ハンドクリーナーを購入し、気軽に掃除機をかけられるようにした。 草引きについては業者に依頼し施行した。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務所のレイアウトが変わったこと、コロナ対策のため、サロンの出入り口が縁側からと工夫されている。 サロンが職員の休憩場所としても使用されているので改善をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 面会、相談、職員の休憩場所などをパーティションや利用予定表などで工夫してストレスなく使用できるように工夫する。 床が畳みであることを活かし、利用者の様々な生活様式に沿って過ごせるように環境づくりに努める。



<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であってもできないかを検討し、地域とのつながりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・依然、コロナ禍のため地域での活動は自粛しているが、町内清掃やとんど祭りに参加することができた。 ・毎週火曜日と土曜日に移動販売車が来る。その際に利用者も職員も買い物をして、地域の方々との交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回の移動販売、週1回の体操をはじめ、地域の人々が集まれるつどい場にして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策の進捗を見ながら、地域とのつながりを深める。 ・週2回の移動販売、週1回の体操を継続し、地域の人々が気軽に集まれる場となるように努める。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を歩いたり、職員それぞれがアンテナをはり、小さな事でも良いので地域の情報収集をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出向くことがあまりできていない。 ・自サービスのみでケアが完結してしまう傾向。今後は地域と共に利用者を支える取り組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が暮らしてきた生活環境を大切にして、地域とのつながりを大事にして欲しい。 ・地域資源とはどういったものなのかが漠然としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民生委員や自治会と関係を作り連携できるようにしていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても個々に、老人会や民生委員や行政と情報交換を行い運営に反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため運営推進会議が中止となっている。 ・自治会、老人会、民生委員との交流も希薄。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が自由な発想で意見を出し合い実現して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても個々に、老人会や民生委員や行政と情報交換を行い運営に反映するとともに地域づくりに役立てる。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練などを通じて、職員に防災計画や災害時の対応を周知する。 ・備蓄品などの整備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災避難訓練に加え、風水害避難訓練を始めているが手探り状態である。今後、BCPの策定が義務付けられることもあり進めていく。 ・感染症対策も含め備蓄品を順次そろえている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの策定を進めていく。 ・備蓄品の保管場所の確保が必要。 ・地域住民とのかかわり方も今後要検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPを策定し、備蓄品の確保や管理などの仕組みを確立する。 ・災害時の地域住民との関りを検討する。